

令和3年度第1回対馬市総合教育会議 会議録	
1. 開会日時	令和3年12月23日(木) 午後3時25分
2. 場 所	対馬市役所厳原庁舎 別館大会議室
3. 出席委員	比田勝市長、永留教育長、一宮委員、佐伯委員、齋藤委員、早田委員
4. 出席者	総務部：木寺部長、桐谷次長 教育委員会事務局：八島部長、庄司次長、吉野課長、梅野課長、川辺課長、佐伯課長補佐
5. 会議書記	梯主任
6. 閉会日時	令和3年12月23日(木) 午後5時05分
7. 議 事	<p>日程第 1 市長挨拶</p> <p>日程第 2 議題1 対馬市学校施設長寿命化計画について</p> <p>日程第 3 議題2 ICT (GIGAスクール) の進捗状況について</p> <p>日程第 4 議題3 今後の学校統合計画について</p>

桐谷次長	<p>皆様こんにちは。開始時刻前ですが皆様お揃いですので、ただいまから始めさせていただきます。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>ただいまから令和3年度第1回対馬市総合教育会議を開催いたします。まず開会にあたり比田勝市長がご挨拶を申し上げます。</p>
比田勝市長	<p>皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中、令和3年度の第1回対馬市総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また委員の皆様には日頃から対馬市の教育行政の発展に向けて、日々ご尽力いただいていることに対しまして、厚くお礼を申し上げます。そしてまた早田委員におかれましては、この度教育委員を引き受けて頂いて誠にありがとうございました。今後ともよろしく願います。</p> <p>さて、国内の1例目の新型コロナウイルスの感染者が確認されてから、やがて2年が経過いたしました。この対馬市におきましても、本年の8月28日に47例目の感染者が確認されて、その後は感染者は出ておりません。これはひとえにワクチンの効果はもとより、市民の方一人一人がこのワクチン感染症対策にご尽力をされている賜物であると感謝をいたしたいと思っております。しかしながら、今また新たなオミクロン株が出てきておりまして、大阪は昨日ですか、今日は京都府も市中感染が出たというようなニュースが出ておりました。そういうことで対馬市におきましても、この正月に帰省者がかなり帰って来られるものというような話もありますし、まだまだ気が抜けない状況には変わりはありません。そういう中で本日、総合教育会議を開催したわけでありまして、本日の議題は、1点目が「対馬市の学校施設の長寿命化計画について」、2点目が「ICTの進捗状況について」、3点目が「今後の学校統合計画について」、この3点でございます。</p> <p>実は、先日の第4回の対馬市の定例議会におきましても、人口減少問題が多々出され、質問を受けたところであります。私たちがいたしましては、この有人国境離島法の施行によりまして、平成29年、30年までは順調に人口減少対策は成果が出ていたわけでありまして、令和元年度の韓国人観光客の激減によりまして、それがまた元に戻ったというようなことでありますけれども、そのことはあまり何と言いますか、無視されたと言いますか、取り上げていただけなくて、むしろ市の施策がまだまだ不足しているのではないかというようなご意見が出されたところであります。私といたしましても非常に残念で、その後議会が済んだ日に各部長さん達を集めまして、このようなことで対馬市の人口減少対策についての認識を、また新たに皆さんに持っていただくとともに、今後も五島等に負けないように一生懸命に取り組んでいこうということで確認をしたところであります。そういう中、この学校教育会におきましても、今年度末をもって南小学校、そして佐須中学校が閉校となり、小学校が17校、中学校が11校になるということであります。本日はこのような状況を踏まえまして、今後の学校施設の維持管理のあり方、そして学校統合計画の議論を深めたいと思っております。また加えまして、このICT関係でG I G</p>

	<p>Aスクールのことにつきまして、私もできれば1回学校を訪問いたしまして、どのような形で活用されているかということを出向きたいと思っておりますので、またその際はよろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>本日は委員の皆様にご意見を賜りまして、今後の教育行政に活かしてまいりたいと存じます。どうか本日はよろしくお願ひいたします。</p>
桐谷次長	<p>ありがとうございます。これからは着座のまま進行させていただきます。</p> <p>それではお手元の令和3年度第1回対馬市総合教育会議の資料を1枚おめくりください。次第3の「議題」に移ります。はじめに「対馬市学校施設長寿命化計画について」から説明させていただきます。教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
庄司次長	<p>それでは私から「対馬市学校施設長寿命化計画について」説明させていただきます。資料の1をお願いいたします。この資料は3月作成のために、小学校数が19校となっておりますけれども、令和3年度現在、市内には小学校18校、中学校12校を設置しております。すべての校舎は合併前に建築されたもので、建築後かなりの年数を経過しており、児童・生徒に不便をかけている校舎もあります。そのような中、対馬市では公共施設等総合管理計画を策定しており、学校施設の整備についても長寿命化によるコスト削減と予算の平準化を図る必要があるため、本年3月に対馬市学校施設長寿命化計画を策定しました。本計画は、インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議において策定されたインフラ長寿命化基本計画及び文部科学省インフラ長寿命化計画に基づき作成しており、対馬市公共施設総合管理計画の学校施設個別施設計画として位置づけ、計画期間を今後20年間としております。</p> <p>4ページをお願いいたします。学校施設の目指すべき姿として、6項目を掲げて進めていくこととしております。具体的には1つ目として、安全性、安全対策など2項目。2. 快適性として快適な学習環境など2項目。3. 学校活動への適応性として主体性を養う空間の充実など7項目。5ページをお願いします。3となっておりますが、これは4の間違いですね。4. 学習活動への適応性として学校図書館の利用など5項目。その他環境への適応性、地域の拠点化などを掲げております。</p> <p>6ページから8ページには、2年度末現在の学校設置状況と配置状況になります。後ほどご確認いただきたいと思います。</p> <p>9ページをお願いいたします。こちらには令和元年度までの5年間の施設関連経費の一覧となっております。ご覧の通り、維持費、整備費等を合わせ年平均で約5億8千万円を要しておりますが、この内平成27年度は比田勝こども園の建築、令和元年度には空調機器整備及びブロック塀改修などを実施しているため金額が大きくなっております。特別な施設整備を除いた通常の維持管理費は、年平均約2億8千万円余りとなっております。10ページには、建築後20年間で大規模改修を行い、建築50年で改築という従来型の更新サイクルで仮定</p>

	<p>した今後の維持・更新コストの試算となっております。従来型の改修を続けた場合、試算では今後40年間の施設整備コストは、年平均14.4億円で、直近5年間の5.8億円の2.5倍となっております。これはシステムに入力し、機械的に算出したものとなっております。</p> <p>次に13ページから16ページをお願いいたします。こちらには現在の各小中学校の校舎の基本的な情報を一覧で掲載しております。この表の右側に劣化状況評価を示しておりますけれども、右側が100点満点での健全度となっております。やはり建築が早い校舎の健全度が低くなっていることがお分かりになると思います。続きまして17ページをお願いいたします。こちらには改築中心から長寿命化改修に切り替えた場合の試算を記載しておりますけれども、長寿命化事業に係る補助金を活用する場合、機能向上と機能回復を図る必要があり、従来型と比較した場合、若干コスト的には低くはなっておりますが、直近5年間の平均を大きく上回るため、施設更新を行うか、または長寿命化事業を行うかについては慎重に検討していく必要がございます。</p> <p>18ページからは学校施設整備の基本的な方針を記載しておりますが、対馬市公共施設等総合管理計画の基本方針に準じております。長寿命化改修の基本的な方針としましては、国庫補助事業の関係から目標使用年数を80年とし、耐力度調査を実施の上、躯体が80年の使用に耐えうると判断された施設のみ、長寿命化を見据えた改修をすることとしております。また、この基本方針を踏まえた長寿命化の実施計画ですが、建築後20年を目安に大規模改修、建築後40年を目安に長寿命化計画を行うことを基本的な考え方としておりますが、厳原小学校など建築後50年を経過し、すでに施設更新などの検討を始めている学校は短期整備計画の対象としております。現在厳原小学校の校舎が最も古く、建築後58年を経過しております。今年度校舎の耐力度調査を実施しましたが、全ての項目において文部科学省の補助対象となる基準点を下回っており、令和4年度に基本設計ができるよう振興計画に計上し、施設の改修に向けて取り組んでまいりたいと考えております。以上で学校施設長寿命化計画の説明を終わらせていただきます。</p>
桐谷次長	<p>ありがとうございました。それでは対馬市学校施設長寿命化計画について意見交換をいたします。委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p>
佐伯委員	<p>はい、よろしいでしょうか。</p>
桐谷次長	<p>佐伯委員、お願いいたします。</p>
佐伯委員	<p>はい、佐伯です。まずお礼と言うのもおこがましいのですが、厳原小学校がやっと来年から調査に着手していただけたということで、長年の懸案であったことがやっと前進したなというところで本当に感謝を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>この学校施設もたくさんあって、私たちも当委員会の中で報告は受けるのですが、基本的には適切にずっとやっていただいているという認識を持っております。なので、特に私自身は質疑はございませんが、とりあえずお礼を申し上げたかったので。そういうことで。</p>

比田勝市長	よろしいでしょうか。
桐谷次長	はい、お願いします。
比田勝市長	もう佐伯委員からわざわざ過分なお礼ということで、申し訳ないと思いますけれども。実は巖原小学校の施設更新については何もないのですけれども、ただ、教育委員会と建設部とまだまだ本当に場所はここでいいのかと、今の現地でいいのかと、というようなところを詰めていく必要があることも事実です。私に色々話が来ているのが、教育委員会サイドでは今の現地のところで進めていきたい。ただ、建設部では都市計画の関係であそこは一部が、運動場に床版が張ってあるらしいですね。下に杭みたいな梯子みたいな。そういう関係もあって、そういった面で建設部としては別のほうが望ましいのではという言い方をしているものですから、そんな悠長なことを言っていたら間に合わないよということも言っているのですけれども。積極的に建設部とも再度またよく意見交換をして早く詰めてもらいたいなと思っております。
桐谷次長	ありがとうございます。
比田勝市長	そのことでは何か教育委員会サイドとしては何か。
永留教育長	今新しく建築しようとしている校舎は今の北側と言いますか、玄関側にあそこに校舎を建築する予定ですので、今の本校舎、グラウンドのところの、あそこを壊してあの跡をグラウンドにするから、その時にあそこの柱で差を作っている部分をきちんとしようという話はしています。ですからグラウンドは広くなりますので、せり出しているあそこは必要ないと。
比田勝市長	わかりました。
桐谷次長	他にご意見はございませんか。
一宮委員	はい。一宮です。長寿命化については良いのですけれども、閉校する学校のこととはどの部分に意見を言ったら良いですか。この項目が今3点ありますけれども、ちょっとこれにも関連があるのかと思うのですけれど。
梯主任	③ですかね、学校の総合計画の。
一宮委員	わかりました。
早田委員	いいですか。早田です。長寿命化ということで今までの改修のパターンでいくと50年周期と。で今度は長寿命化になると80年という数字が出てきているのですけれども、80年というのはどこからその数字が出てきたのかなと。結構な年数だなと。
庄司次長	すみません、後ろのほうから失礼いたします。長寿命化事業をする場合、その要件といたしまして建築後40年を経過した物とか、今後30年以上使用するものということが要件となっておりますので、40年を経過して、それから30年使い続ける、ということもございまして80年ということでございます。
比田勝市長	それでは、70年しかないのでは。
庄司次長	40年を経過しているので、70年ぴったりではなくて80年を目途に考えています。
比田勝市長	40年を過ぎてということですね。
庄司次長	30年以上使用するということです。

早田委員	というのは、補修をしていくのでしょうかけれども、80年、予想がつかない。そんなものは見たことがないので、想像がつかないです。
比田勝市長	ただですね、これは学校だけではなくて、道路、橋梁、トンネル、こういった工作物についても、国は長寿命化計画で色々と維持管理をしっかりとしながら寿命を延ばしていきましようというようなことで、かなりトンネルとか橋梁も今、市もかなりの事業費をつぎ込んでやっているのですけれども、あれも確かコンクリートの耐用年数が60数年ですから、それに維持管理費を加えていって、やはり80年ぐらいまでということになっているのではないのでしょうか。私もそこははっきりと分かりません。ということですので、他の省庁関係も同じように長寿命化計画を作っているということだけは事実です。
早田委員	資料を見ると、改修していく従来型よりも長寿命化する経費が5%の縮減となるという試算が出ていますのですけれども、5%のためにリスクが大きくないかなという気はします。やはりトンネルにしる学校施設はそこまで心配ないかなと思うのですけれども。
比田勝市長	おそらくケースバイケースでしょうね。目標は80年でしょうけれども。巖原が経過年数が58年で、なんとか更新しようということにしていますので。できればそういった本当に危ないという判断をした時には、80年まで待たなくて、やっていけばいいのかなと思っております。
早田委員	結構台風の問題ですね。台風で、大型化して強力化しているので、そういった古い建築物は結構やられていますものね。学校にいた頃風で飛ばされた経験があるのですけれども。近隣に迷惑をかけると言うか、下手をすれば大事故になるというものが飛んでいるので、80年も経ったらえらいことになっていないかなという気がしますので、それは臨機応変にやっていただければいいかなと思いますけれども。
桐谷次長	事務局から何かありますか。
八島部長	長寿命化の計画というのは先ほども言われたように、国が新築・改築というシフトから物を長持ちさせようというシフトに変わってくる。その中で早め早めに少しずつ手を入れながら長持ちさせて、1回にかかるコストを下げながら長持ちさせていこうというところで、こういう計画ということで、目標としては80年ぐらい持たせようという。新築から80年というところの部分なのですけれども。対馬市の建物が結構古くなっているんで、その間にある程度手をかけていない部分もあるので、少し改修をするには、実際には経費がまだかかるのかもしれないのですけれども、計画としてはこういった形で計画を立てて行くというところで、今回計画をさせていただいているところで。
早田委員	わかりました。
桐谷次長	齋藤委員から何かございませんか。
齋藤委員	大丈夫です。
永留教育長	対馬の学校、例えば築40年50年以上になっている学校を今更長寿命化しても遅いという気がしますね。新築から2、30年の間に長寿命化を目指して、この改修をしていっておけばできるでしょうけれども。

比田勝市長	<p>教育長が言われるように、この中では一律に建築後40年を目安にと書いてありますけれども、普通、道路構造物とかそういった面では塩害地域、要するに塩害対策。海に近いところはそれだけコンクリートの劣化が早いとか、色々あるのですよね。ですからそれを考えた場合、対馬みたいな周りが海に囲まれているところは一般の地域よりも40年の目安が早まる可能性もあるかもしれません。</p>
八島部長	<p>長崎県の場合、建築基準法の12条点検を学校の場合しなくていいようになっている関係で、あまり点検をしていないというところもあるのですけれども、通常ですと12条点検に沿って専門家がある程度のスパンで点検をしていくことによって、早め早めに悪いところを補修していくと、いうことを本来はしていかなければいけないところもあるのかなと思うのですけれども、なかなか今、長崎県ではそこらへんまで義務化されていないところもあって、経費もかかることもあって、点検が少しできていない部分はあるのかなとは思っております。</p>
一宮委員	<p>すみません。関連で今部長さんもおっしゃったのですけれども、長寿命化の実施計画はプランニングとして理解できますけれども、ただ現実問題として、コロナ禍になる前、2年ぐらい前に教育委員が豊玉小学校とかいろんな施設を訪問させて頂いて、体育館で雨漏りがとか、あるいはちょっと外壁が心配だとか、実はいろんな現象があるのです。子どもたちの学びの場が実際そうなのでもなかなか、市に言っても、予算の関係でなかなかならないのですよということも校長先生方のそれぞれの声を随分と聞かせていただいたのです。</p> <p>それで今安全点検という言葉が出てきましたけれども、学校は必ず安全な現場にしているのですけれども、安全点検をした後の、小さなことは予算化して頂いてると思うのですけれども、ちょっとした施設関係の、体育館とかそのあたりの部分につきましても、できれば学校施設に目を向けていただければもっと現場の、学校を預かる校長先生方はありがたいと思います。一応要望としてあげさせていただきます。</p>
比田勝市長	<p>決して学校の声を見無視しているわけではございません。出来る限りの予算付けはやろうということで、努力はしているところでありますので、ご理解をお願いいたします。</p>
佐伯委員	<p>よろしいですか。例えば劣化状況の評価の中で、屋根・屋上・雨漏り、命の危険に直接影響があるかといえ、多少少ないのではないかなと思われる部分があって、外壁、これはちょっと落ちてきたりすると危ないよねというところがありまして。以前、豊玉小学校でひさしの一部が欠けて落ちてくるというようなことがあったのです。そういう時には速やかに対処していただいて、委員会からも見に来ていただいたのです。PTA会長をちょうどしていたので覚えているのですけれども。</p> <p>それで今見てみると、評価がBになっているということですね。そのほか、たとえば内部仕上げについても危険な箇所についてはそれほど多いような状況でもないのかなと。電気設備とか機械設備、このあたりは更新をすればすぐにでも新しくなっていくのかなというところで。設備的に非常に古い部分もあるのでしょうかけれども、Bが非常に</p>

	<p>多いというところで全体的に、よく教育長もおっしゃるのですけれども、よく学校を見てもらっているというようなことを時々委員会の中でおっしゃって頂くのですけれども、本当に一覧表を見るとその状況が分かりやすいなと感じております。</p> <p>ただ総合点数が低いのもやはり機械が古かったり、そういったところで点数が下がっているところもあるので、まずは安全第一というところで、まずまずなのではないかなとこれを見て感じたところです。</p>
桐谷次長	<p>委員の皆様、学校施設長寿命化計画について、他にこれは言っておいたほうがいいかなというようなご意見はございませんか。</p> <p>それでは次に移ります。議題⑨の「ICT（GIGAスクール）の進捗状況について」、教育委員会事務局からの説明をお願いいたします。</p>
吉野課長	<p>それでは「ICT（GIGAスクール）の進捗状況について」ですが、GIGAスクール構想等の取組についての現状という捉え方で説明をさせていただきます。資料2になります。GIGAスクール構想についてですが、一人一台端末と高速通信環境の整備をベースとして、Society 5.0、Society 5.0についてですが、Society 1.0は狩猟社会を指します。Society 2.0は農耕社会、Society 3.0は工業社会、Society 4.0は情報社会を指します。Society 5.0はサイバー空間、仮想空間とフィジカル空間、現実空間を高度に融合させた社会のことを指し、Society 4.0に続く新たな社会であり、我が国が目指すべき未来社会の姿とされています。</p> <p>話を戻しまして、GIGAスクール構想についてですが、一人一台端末と高速通信環境の整備をベースとして、Society 5.0時代を生きる子ども達のために、「個別最適化され、創造性を育む教育」を実現しようとする施策全般を指します。</p> <p>1. 一人一台端末の対馬市の導入状況についてですが、平成30年度末に中学生に一人一台タブレット端末を、小学校は最大学年級の学年人数分を導入しています。令和2年度末には小学生にも一人一台端末を導入し、小中学生一人一台端末を実現しています。対馬市の端末の特徴についてお話をさせていただきます。資料については資料2、5ページ裏のカラーの「対馬市小中学校一人一台端末の活用イメージ」をご覧ください。対馬市の特徴としては、LTE方式を採用し、校内外を問わない利用を可能としていますので、授業のみならず、家庭での活用や学校外での見学学習での活用や、見学先での写真等の記録の共有や資料の検索ができます。また島内に限らず、島外の修学旅行時にも同様の活用ができます。場所を選ばず学習に活用することが可能であるということが対馬市の小中学生一人一台端末の大きな特徴です。またロイノートという学習支援を行うためのプログラムシステムアプリの導入による学習や授業支援、AI型電子ドリルの導入による個の学びの充実を図っています。また機器の修理等については基本的に保険対応としていること、機器・通信・各アプリ・メンテナンス等のパッケージ契約をしているので、同一社と連絡調整をすることで対応が可能になることも特徴です。</p>

では各学校の活用状況について説明をします。資料2の1ページに戻っていただき、2. 各学校での活用状況をご覧ください。(1) 授業での活用例についてです。①学習の課題についてネットで調べるなど主体的に調べるための調べ学習に活用しています。②児童生徒の作業内容を教師に提出します。提出は写真で撮ったり、タブレットに文字で書いたものや、まとめたものなどを指先の操作ひとつで教師に提出することができます。教師は全ての回答を画面に並べて学習の状況を把握できます。また子ども同士の回答は、友達同士でもタブレット上で見合うなど、教師による共有のみならず、児童生徒同士でも共有ができます。③体育や音楽などの実技教科では自分の技や動き、演奏などを動画で録画し、後で客観的に見ることで、自らの課題を見出したり、教師もその録画や写真を見ながら評価に役立てることができます。2ページに移ります。④ロイロノートを使用し、動画や写真を交えながら、説明資料が作成できます。大人であればパワーポイント等で凝ったデザインを施すことでプレゼンテーションの説得力を増す手法を使いますが、ロイロノートでは簡易なプレゼンテーションしか作れません。しかし、このことはいたずらにプレゼン資料に凝る時間を要するのではなく、いかに資料を精選し、いかに有効活用し、自らの言葉を交えて説明するかという総合的な表現力育成に大きな力を発揮する説得力ある表現力育成のツールとして用いております。⑤タブレットに記録したことを友達と見せ合いながら、グループで学びを共有できます。新学習指導要領では主体的、対話的で深い学びの実現が謳われていますが、対話の質を高めるツールとしての効果が期待されます。⑥電子ドリルはA I型の電子ドリルを導入しています。これはタブレット上で問題を解くことにより、個人のデータが蓄積され、それをA Iが分析することによって習熟が必要となる部分が提示されるので、個別学習の充実につながります。次に(2) 学校内での活用については、①アンケートを実施したり、②授業外でも作成資料を集めたり、活用したりできます。(3) 家庭内の活用例についてです。①電子ドリル活用によって、個別の学習支援ができます。②家庭で行った作業・宿題等を教師に提出したり、教師から課題を児童生徒に配信したりすることができ、効率化が図られています。(4) 校外での活用については、遠足や見学学習などに携行し、写真や動画、メモなどを記録したり、その場で疑問に思った事をネットで調べたりしています。(5) に記していますが、島外への修学旅行でも活用し、先ほどから話しております動画や写真の記録はもちろんのこと、地図の確認、学校へのリアルタイムな旅行の様子の配信などに活用をしています。

続いて、実際のタブレット端末活用状況についてです。資料は3ページになります。これは今年度の5月に中学校に調査を実施したものの結果になります。少し時間は経っていますが、現在はこれよりも利用頻度は高く、内容も充実していると感じております。まずタブレット端末の持ち帰りについては、頻度は異なりますが全ての学校で持ち帰りの活用しています。授業での活用については、生徒について「ほぼ毎回、ほぼ毎日」が84%でした。教職員の利用については「ほぼ毎回、ほぼ毎日、週に数回」が59%でした。一部の教職員にとって

	<p>は活用への壁がありますが、これは活用が図られるにつれ、減少していくと考えております。タブレットを用いた学習で教職員が成果があると感じるものについて、「とても効果がある、効果がある」と感じていることは3ページにグラフで示しております。これをまとめたものが4ページになります。80%以上の教職員が「効果がある、とても効果がある」と感じているものは、学習意欲の向上が91%、理解を促す効果が91%、思考を促す活動が82%、情報を活用する効果が94%、表現を促す活動が88%となっており、実際の活用を通じてその効果は高く感じていることが分かります。逆に「効果がある、とても効果がある」と感じている教職員が80%未満のものは、「情報モラルを学ぶ」が60%、「個に応じた指導」が70%、「対話的な学びのツール」は66%です。情報モラルと対話的な学びのツールとして効果を感じるためには、教職員のスキルや、授業力向上に関わっています。新学習指導要領に基づく学習の充実を図りながら、活用を進めていきたいと思っております。また電子ドリルの活用が個の学習の充実を図る手助けとなるとも考えておりますので、その様子を引き続き伝えていきたいと考えております。またタブレットを用いた学習で、今後も進んで活用したいと感じる機能としては、ロイロノートの活用、動画や録音機能の活用、プレゼンテーション活用などが挙げられます。</p> <p>最後に、今後の更新等についての方針についてです。市内では2,520台のタブレットを運用しており、平成30年度からタブレットに着目したICT教育、特に端末の持ち帰りについては全国でも初の試みとして評価を受けております。契約期間についてはGIGAスクール補助により、小学校の端末の増数を図った関係から、現在の契約は令和8年3月31日までとなっています。契約金額は端末、通信、メンテナンス、ヘルプデスクの利用なども含め、月額が約1,000万円となっております。今後の更新についてですが、時代の流れは早く、数年先を見通すのが難しい現状となっております。タブレット導入業者とは現在毎月の連絡会を持ち、全国的動向や本市からの要望等話し合う機会を持っております。これらの情報を精査しながら今後の更新等について計画を策定してまいります。説明は以上になります。</p>
桐谷次長	はい、ありがとうございました。それではICT（GIGAスクール）の進捗状況について意見交換をいたします。委員の皆様からご意見をお伺いいたします。よろしく願いいたします。
佐伯委員	対馬市はほかに先駆けて中学生とかに一人一台端末を持ってもらうようになりましたし、本当に素晴らしい取組をして頂いていると思います。少し気になっているのが、先ほど吉野課長からもおっしゃっていただいていたように、ICT機器は非常にサイクルが早いということです。機器だけではなく、移り変わりがすごく早くて、少し話題から逸れるのですが、例えば先日聞いたニュースだと12歳の子どもが書いた絵がNFTというパソコンで描いた絵ですけれども、NFTという技術を使って本物ですよっていう認証をつけて売り出したら、1億数千万円で売れたというニュースがありまして、その子どもの描いた絵

	<p>はもう今までも6億円ぐらいの値段で販売が出来てたというようなことがあったりとか、今メタバースというFacebook社が社名を変更してそちらに注力しますよと言っているように、おそらくもう数年後は市役所は仮想空間の中であって、いろんな手続きが端末の中で自分が体験しているようにできてしまうような世の中ができてしまうのかなと感じたりしております。</p> <p>実際そういったようなことを子どもたちに解決させるのはなかなか難しいんですけども、2つほどお願いがあって、1つは端末は一人一台行き渡っているのですが、パソコンのほうを充実させていただきたいと思っております。プログラミング学習とかで簡単なアプリでプログラムを学ぶことができるのですが、実際にホームページを作ったりとかというようなことを、できる環境だけはある程度整えてあげたほうがいいのかなということだったりします。機器が古くなるとそういったことにも使えなくなってくるので、各校に数台程度はそういった開放的なパソコンも必要なのかなということを感じております。</p> <p>あと、せっかくICT推進室が立ち上がっておりますので、またGIGAスクールの中で困られた時とかでも相談しやすいような体制作りをさらに進めていただければいいのかなと思っております。以上です。</p>
桐谷次長	<p>ありがとうございます。一人一台ずつの導入になっております、小学校も中学校も。この導入の状況、また活用状況の説明がありましたが、そのあたりについて委員の皆様からご質問、ご意見ございませんでしょうか。</p>
早田委員	<p>はい。早田です。小学生も中学生も各一台ずつ持っているということで、持ち帰りもできるとなると、持ち帰ることによる問題は起きていないのかなということと、ロイロノート、どういうものか少し分かっているつもりなのですが、教師と子ども間でそれを使用するぶんには目が行き届くのですけれども、子どもと子どものものに関して、授業でやったら教師が見ているからいいんだろうと思うのですけれども、持ち帰った時に子ども間でチャット的なことはできるのかなと。早い話、いじめ的なことにつながりはしないかなという思いがあるのです。それはなぜかというと、東京の方でありました学校配布のタブレットの中で、それはロイロノートではなかったのですけれども、子ども達の中でタブレットを使いたいじめですね、それが発生したということがニュースになっていました。タブレットのパスワードが全部同じだったってことで簡単に入れるということで起こった事件だったみたいですけど、ロイロノートはそういったものは大丈夫なのかなと危惧しているのですけれども、どうでしょうか、という質問です。</p>
桐谷次長	<p>吉野課長お願いいたします。</p>
吉野課長	<p>まずセキュリティ関係については、導入当初からかなり高いセキュリティを入れております。入れているがゆえに、逆に学校からの自由度を上げてもらえないかという話があるところなのですが、まだ最初の段階ではかなりセキュリティをあげた状況で運用しないと、今おっしゃるようないじめであるとか、子ども達が自由に使うことで不具合</p>

	<p>が出てくる可能性があるので、そういう運用をしております。担当にも確認したのですが、例えばY o u T u b eあたりもタブレットで今見ることができないとか、掲示板関係とか、チャットとか、そういったところにはアクセスできないようにしておりますので、そういう心配は今のところ本市のタブレットでは無いかなと思っております。ロイノートについても、教師がその場を設定して作ってのやりとりが中心になると思うので、子ども同士で勝手にして困ってという話は聞いておりませんので、そのへんは本市のセキュリティに関して簡単に言うと、油断はできませんけれども、東京のような事例は起きないのかなと思っております。</p>
早田委員	はい、わかりました。
桐谷次長	そうしましたら、持ち帰ることについての問題点はあまりないということ。
吉野課長	持ち帰ったことで非常に良くない運用がこのタブレットでされたという話は今まで聞いたことがありません。時間も夜は10時になったら使えないようにしておりますし、朝も7時からしか使えないようにしておりますので、夜遅くまで扱うというようなこともありません。特に持ち帰ってこのタブレットで問題が出たという話は聞いておりません。
早田委員	ありがとうございました。よくわかりました。
比田勝市長	私から1点だけ。1ページのところで、このタブレットの機器の修理等については基本的に保険によって対応していくということが書いてあるのですが、これは確かドコモさんからリースで借りるのでしょ？このタブレットを。リースで借りた部分を保険で修理するというのはなぜかなと。要はリースですと普通リース元が修理するようになっているのではないかなと私は今までそういう理解をしていたのですが、またそこらへんについてできたら。
吉野課長	うちはパッケージ契約と聞いていて、全て含めて通信料、端末、ヘルプデスクもありますけれども、それも含めた中に保険というか紛失においても、よほどじゃない限りは契約の中で対応していくという形をとっています。先ほどの月1,000万円ぐらいになりますが、その中に全て含まれていて、そこで対応するということ。実際何例も、壊れたりとか一時紛失したりとかもありましたけれども、すべて、保護者からお金を取るような形では今のところ聞いていないですが、本市においてはそういう対応をしております。他市においては、県の回答でも話題になったのですが、その保証はどうしているのか、委員会が持っているところとか、もう全て保護者を基本にするとか、となります。対馬市の場合はパッケージの中で全て運用しているという形ですね。
比田勝市長	ということは、保険で対応しない事例はないということよろしいのですか。
吉野課長	そういうことです。私の認識としてはパッケージの中に保険が入っていて、そこで運用されているという捉え方なので、改めて保険を払っているとかということはありません。とにかくパッケージの中で全て対応ができています。

比田勝市長	分かりました。
桐谷次長	保護者の負担もございませんが、公費の負担もないということですね。
吉野課長	そうですね。全てパッケージ契約をしておりますので。タブレットに関しては、保護フィルムを換えたりとか、そこは少しSIMを変えたりしなければいけない時は多少発生するみたいですが、特に公費でこの毎月の契約以外でかかるということはタブレットについてはありません。
八島部長	基本的には全く今は発生していないということで。子どもが落として壊したりなんかしてもドコモが切り替えて新しいやつをくれると。
桐谷次長	補償も含まれているということですね。
吉野課長	そうですね。
比田勝市長	それとあと1点、ドコモの福岡支店長さんが私の所にご挨拶にお見えになった時に、お願いをしていたのですけれども、対馬市の小中学生の子どもたちの家庭に持ち帰った時に、不感地域はどうかという話をした時に、不感地域はないというような話をされていたのですけれども。ただ、中学生の駅伝大会が豊玉の運動公園であった時に、その体育館の中でもドコモが通じなかったし、スタート地点で入るかなと思ったところでも入らなかったということで、いや実はこういうことであそこらへんは入りませんでしたよという話をしたら、すぐに行って色々調整をしていただいたみたいで、改善しましたという報告は来たのですけれども。そういうことで、特にこの子ども達の家庭に持ち帰った時に、そういう不感地域がもしあった場合は、早急にドコモさんに言って改善してもらわないといけないですね。
吉野課長	学校の中においても電波が届きにくい場所があるので。例えば比田勝あたりは非常に届きにくい現状があって、そこはドコモとも協議をして、結果的には基地局とブースター局というのがあるのですけれども、ブースター局を基地局化したりとか、元々あった基地局のバンド、周波数帯でしょうか、それを一つ1.5GHz帯というのを付け加えたりとかして、対応して頂いております。そういうところが何か所かあって、光ケーブルを引かなければいけないところとかもありましたが、学校に関してはそういうふうには計画をというか対策を講じてもらっているところです。細かい地区までは、学校からどうもこちらあたりはどうにもならない、という声は届いていないので、不便をかけている部分はあるかもしれませんが、そういう声が聞こえたらまたドコモに伝えていきたいところです。
比田勝市長	わかりました。
齋藤委員	よろしいでしょうか。タブレットは、子ども達が大人になるにつれて大変もちろん素晴らしいことだと思っているのですけれども、2点お伺いしたいことがあります。今LTEというのを使っているのですけれども、いずれ5Gが対馬に来るのは具体的にいつ頃なのかというのと、5Gになると端末は全てチェンジになるのか、それとも継続して使えるのかということをお伺いしたいです。ちょっと未来的なことかもしれませんが。

佐伯委員	<p>ちょっと素人意見でよろしければ。5Gはこのあたりはつながるのですよ、このあたりは対応しているのです。もう地図にも載っているのです、使えるのですけれども。他はまだあまり聞いたことがないですね。それで5Gも2種類3種類の電波を使い分ける方式なのです。遠くまで届く電波は通信が遅いのです。でもカバー範囲が広いのでそれもやるし、近くにある時には短距離しか届かないけれどもいっぱい電波をつなげられるような電波を捨てるような仕組みになっているのです。なので4GのLTEが使えなくなることはないのですけれども、5Gが使える端末というのは最新式のものでないと無理なので、それは切り替えていくしかない。なので次の時に5Gが世の中に溢れるよねという時に切り替わるというような運用じゃないかと思えます。</p>
比田勝市長	<p>私がNTTさんに聞いた時には、今の対馬市のこのケーブル網では5Gは難しいですと。厳原はこの市内だけはなんとかできているらしいのですけれども、ただこれがちょっと外れたら難しいというようなことなのです。それで今、対馬市で計画をしているのが、対馬市のCATVが光ケーブル網を作っております、全島で。ただこの対馬市の光ケーブル網を使っても5Gにチェンジは難しいということですから。今の対馬市の光ケーブル網、要するにCATVを民間に譲渡しようということを今進めているのです。それが例えばNTTさんになるのか、KDDIさんになるのか、まだはっきりは言えませんが、要は今から先、この5Gにしる色々なSociety 5.0の世界に入っていく中で、またケーブル網をやり替えろと言われても、あの時に74億円もかかった品を、今それをするのだったら90億近くかかるのです。そんな財源は対馬市にありませんので。それよりも民間に譲渡して、民間のほうに光網を作ってもらおうということで、実は先々週も総務省にその要望に行ってきたのです。</p> <p>そういうことですから、将来的にと言うか近いうちにこの民間のほうに譲渡するということが今準備をしています。ですから今、対馬市のインターネットは、一般で30MBですよ。そして特別に料金を払えば100MBまで速くなったんですけど。これが都市部、本土の地区のほうではもう今普通の契約で1GBになっている。それから将来的にも対馬市の場合も、例えばNTTさんが入ってきて同じサービスをすれば、個人宅でも全部1GBでできるから、料金もそんな大きくは変わりませんので、インターネット等はそういう形でもしないと速くなっていかない、ということで計画をしておりますけれども。</p>
桐谷次長	<p>他にご意見がある委員さんはいらっしゃいませんか。</p>
一宮委員	<p>一宮です。市長さんから素晴らしいお答えを頂いたので1つ。中学生の持ち帰りによる運用は全国でも初の試みとして評価を受けているということで、先ほど課長さんが、セキュリティがしっかりしているから、夜は10時まで朝は7時からとおっしゃいましたので、それはすごく大きな成果だと思うのです。すごく良いことだと思うので、これをずっと守っていきながら子どもたちのいろんな学習効果なりいろんな生活の部分なりが、どのような変化が出てきたかを追跡ではないですけど、していくと逆にまた対馬独特の教育効果が上げられるのか</p>

	<p>など思っています。1回台風か何かで学校が閉校になった時に一番に学習状況とか何とか全部しましたよね。一人一台とか。そういうことも含めまして、全国からそういう意味で教育に注目を浴びるといのはとても良いことなので、成果をどんどん積み上げていただければ良いのかなというのが1点。</p> <p>それともう1点は先ほど佐伯委員さんがおっしゃっていましたが、パソコンとこのタブレットの充実の仕方と言いますか、関連と言いますか子ども達への与え方と言いましょか、有効的な活用というのをどういうふうになっているのかちょっと私も知りたいなと思ひまして。</p>
吉野課長	<p>我々の考え方としては、子どもに与えるのはパソコンがいいか、タブレットがいいか、ある意味二者のうちどちらかを選ぶという段階に来たのです。それは数年前ですが、今後のことを考えると場所が必要で、線で繋がるパソコンじゃなくて、どこにでも持って行けて自由度も高いタブレットというのがこれから必須になるだろうと。だからタブレットを入れて、そのことを教育に活かしていこうという決断に達しました。当時はそうかなとよく分からないことがあるぐらいの頃の決断でありましたが、今になってみると、あの時パソコンを一人一台入れていったらもう時代遅れになっていたなど。その後コロナもあってGIGAスクール構想等が早まったので、どこの自治体も一人一台を実現しております。今我々の中では、先ほどパソコンというお話もありましたが、両方というのは財政的にも非常に厳しいと思うので、まずはこのタブレットをどう使って学習効果を高めるために活かしていくかという、そっちを重点に考えていきたいと思うので、キーボード等もつけておりますので、キーボードでタブレットを打つこともできますので、タブレット中心で考えております。</p>
一宮委員	<p>今後の課題は教職員がいかに技術をつけていくということになりますね。</p>
吉野課長	<p>そうですね。それは1つの課題であります。</p>
一宮委員	<p>はい、わかりました。ではもう1つ、この令和8年3月31日までとなっている、その後もまた予算関係がかなり大きいですよ、と思ひますけれども。以上です。</p>
桐谷次長	<p>そのほか。</p>
早田委員	<p>学校のw i - f i化は早いですか。</p>
吉野課長	<p>学校のw i - f i化は可能なのですがけれども実用に耐えない。子ども達が全部使うことは難しい。</p>
早田委員	<p>家庭に持って帰ったらですね。家庭に持って帰った時に使えない。</p>
吉野課長	<p>学校の端末も家に持って帰ってw i - f iに繋いでもらうこともできます。そうしたほうが通信料も使いませんので。そういう設定はできますので、家庭ではどんどんw i - f iにつないでくださいと伝えています。</p>
早田委員	<p>繋いでいいのですか。</p>
吉野課長	<p>繋いでいいです。</p>
比田勝市長	<p>ただですね、パソコンの場合は、たとえば学校外で、外とする時は誰かがw i - f i端末を持っておかないと使えないのです。そういう</p>

	不便さがあるものですから、それから考えるとLTE方式のタブレットが良いのかなということで決断をしています。
吉野課長	正確に言うと、w i - f i もできてLTEもできるタブレットです。LTEのみのタブレットではなく、w i - f i もできるタブレットになります。
早田委員	自宅にw i - f i がいない家庭もあるでしょうし。
佐伯委員	学校でやると回線が混み合いすぎて固まったり、動かないようになるでしょうね。
桐谷次長	それでは次に移ります。議題の3つ目「今後の学校統合計画について」、教育委員会事務局から説明をお願いいたします。
庄司次長	<p>はい、それでは「今後の学校統合計画について」説明をさせていただきます。資料3の第2期統合推進計画をご覧くださいと思います。対馬市立学校適正規模適正配置等検討委員会の答申を受け、平成23年度に策定しました対馬市立学校及び幼稚園等統合推進計画に基づき統合を進めてきましたが、計画期間が2年度までとなっておりましたので、本年5月に令和3年度以降における対馬市立小中学校及び幼稚園の統合並びに通学区域の変更を具体的に進めていくため、第2期推進計画を策定しました。</p> <p>1 ページから2 ページ中段までに小中学校の現状、幼稚園の現状ということで、第1期計画策定時からの児童生徒数及び園児数の推移を記載しております。第1期期間中に小学校は本校26校、分校1校から本校18校へ。中学校は15校から12校へと統合が進んでおります。幼稚園につきましては4園からこども園を含めたところの3園となっております。</p> <p>2 ページ下段の3計画の背景及び4の計画の目的として、児童・生徒数の減少、少人数学校等に起因する統廃合の必要性、子ども達が豊かな人間性を築き、社会性の醸成を図っていく環境を整えることを目的とし、対馬市立学校適正規模適正配置等検討委員会からの答申を尊重するとともに、第1期策定から10年を経過し、現状を踏まえた上で第2期推進計画を策定する旨を記載しております。</p> <p>3 ページの5、計画の期間として、(1) で令和3年度から令和12年度までの10年間を全体的な推進期間として定めております。(2) で令和7年度までの前期計画5年間は、具体的な年度別スケジュールを明記して進めることにしております。後期計画は前期計画の統合推進状況等も勘案し、年度別スケジュールを示すことなど、状況に応じた計画を策定することを掲載しています。</p> <p>6 統合の基本的な考えについては、答申を基本とし、(1) 学校の適正規模については変更はありません。次のページをお願いいたします。(2) 通学距離及び通学時間等については、徒歩、自転車による数学の基準を追記しております。(5) 既存校舎の利用等を施設整備等とし、既存校舎の活用はもちろんですが、他の施設計画等も勘案しながら必要な整備を進めていくこととしております。</p> <p>5 ページの7 統合の進め方については、大きく(1) の統合協議期間と(2) の統合準備期間に分け、それぞれの具体的な期間の記載や、準備活動の内容を記載しております。</p>

	<p>6ページをお願いいたします。8の(1)前期計画のイで統合の対象となる学校名を列記しております。ウ通学区域の変更は、現在の通学区域を統合先の学校へ引き継ぐこととしております。7ページ、後期計画のウ通学区域の変更は答申の通りで、現在の美津島北部小学校の通学区域を大船越小学校、豊玉小学校に分けております。これは浅海中学校統合時と同様に大山地区を大船越小学校にするものです。</p> <p>最後に、8ページに前期計画の年度別スケジュールを示しております。基本的な考えとしまして、小学校では全校児童が20人未満となる学校が対象、中学校では複式学級の設定が見込まれる学校を対象としております。学校名に着色されております学校は前期計画での統合対象の小学校・中学校としております。年度別スケジュール欄のピンクが統合協議期間、黄色が準備期間、そして統合後の学校を緑で示しております。また事務局の対応もありますので、各年度1校ずつを目処に進めることとしております。この計画に基づく取組として、昨年度から豆殿中学校の統合協議に入り、本年度の10月12日に保護者説明会を開始しておりますが、統合の承諾は得られておりません。現在、豆殿小学校を含めた保護者にアンケートを配布し、回収をしております。また本年度から乙宮小学校に統合協議に入りまして、10月1日に保護者説明会を開催実施いたしました。保護者からは統合への承諾を頂き、昨日地区説明会を開催しております。以上で学校統合計画の説明を終わらせていただきます。</p>
桐谷次長	はい、ありがとうございます。それでは今後の学校統合計画についてのご意見を伺いたいと思います。委員皆様方からの意見をお願いいたします。
一宮委員	<p>すみません。具体的なことになりますけれどもよろしいですか。実は、今年度南小学校と佐須中学校は閉校になりますよね。それで学校としては地域の拠点化、地域の生涯学習の拠点となる学校施設、あるいは学校図書館の活用云々というのが謳われているのですけれども、実際に学校が存続している場合はですね。それが閉校になりました。それで実は小学校2校、中学校1校が閉校した地域に住んでいる住民、そして非常にそういうところを切実に今まで学校が果たしてきた役割を、結局それを閉校することによって厳中にとばされます。そうなった時にはたして地域の生涯学習の拠点となってきた学校が、現状まだ利活用ができていないというところになりまして、今度中学校もそうなりますと、体育館とかグラウンドというのはスポーツ関係、社会体育関係でうまく運用ができると思うのですけれども、校舎につきまして、たとえば図書館、図書室が学校にありますよね。図書室というのは佐須中学校に関して言いますと多目的ホールみたいなところにあるのですけれども、図書館をうまく設置してみんなに利用してもらうような形はとっておられるのですけれども。あそこは早くに薪ストーブが入っている学校ですね。非常に環境的にそこも良い。先ほどの耐久年数も77点という状況で図書館もあるし。あるいはもって、朝鮮通信使歴史館がこの前できまして見せていただきましたけれども、観光客が佐須のほうには宗義智公の像ができたり、小茂田浜の古戦場とか、あるいは椎根の石屋根とか、そちらのほうにバスがきたり、あ</p>

	<p>るいは阿連のほうに行ったりしているのですけれども、その中で校舎、そういう図書室なり、そこに朝鮮通信使関係も含めまして何か、観光客にちょっと寄って、やんこも会の方々が説明されますよね、その空間を作ってあげて小茂田浜に行くとか。よく私もお会いするのですけれども、自転車で来られたりされていて、説明を求められて何回かしているのですけれども、だけど知識もないし、何かそのあたりのそういう施設とかがあれば良いなという部分がありまして。実際閉校した2つの小学校でしょ、同じ校区に。何も今のところ活用されていない状況で草がぼうぼうに生えて。何かそういうことをより具体的に動き出せないかなと思ひまして、自分の中で実は今日市長さんにお会いするのでちょっと考えてみたのですけれども、あの地域に学校がなくなって、小学校1校は残りますけれども、非常にもったいない地域かなと思うのです。だからどういふふうにお考えになっているのかなと。すみません、具体的な質問になってしまつて。すごく私は切実に思っているのです。</p>
比田勝市長	<p>実は今日、うちのしまづくり推進部からこの学校だけではないですけれども、市有財産の有効活用との関係で今後どうしようかということで協議があったのですけれども、豆殿の今使っていない幼稚園、ここをちょっと産業的なことで活用できないかといった協議をしているものですから、その中の一環で、では今後例えば南小学校が閉校になります、来年。そうした時に南小学校は校舎もまだまだ立派な校舎であるし、ここをどうするかということで、もし誰か、どこかの企業が使わせてくれというような、公募してから公募に応じてきた時には、そこらへんで、ではどのような形で公募に対して市は許可を与えるか、そこらへんを組み立てて行こうということで、まだ具体的なことまで入っていませんけれども、話をしたのですけれども、その状況と一緒に佐須の中学校にしても、先ほど先生から話がありましたように、図書館とかそういったところは、地域が指定管理者みたいな形で運営するという形になれば、それは可能じゃないかなと思ひているのですけれども、部長はどう思ひますか。</p>
八島部長	<p>指定管理でかかる経費をどうするかということはまず最低ライン。地域としてやはり学校の経費等を持つのは難しいでしょうから、そこらへんを市が持つということであれば。地域がそういう考え方を持って、使いたいというご意見があれば、当然それは検討の範囲だということになるかと思ひます。それでなるべくその地域が指定管理を受けていただければ、それに越したことはないのかなと思ひます。我々としても学校がなくなってしばらく使わないよりも、どんどん事業をしてもらうことでは良いと思ひます。ただそのネックになるものが少しあるのだろうということで、そこらへんの整え方だろうと思ひます。</p>
永留教育長	<p>佐護小学校がいい例だと思ひます。やはり地域で有志が集まって、そこをこつういふふうにしていくよつういふような地域づくりをしていかなければならないのではないかなと。</p>
一宮委員	<p>そうですね。もったいないと思ひます。</p>

比田勝市長	今日もちょっとお話ししたのですけれども、そういう形にすれば使用料は無料にすることも可能なのです。1つの地域活性化のためというような名目が成り立てば。ただそれを民間事業者が自分たちの営業のためになれば、ちょっとそこは有料になる可能性はありますけれども。そういった利益を追求しない、地元の協議会とかそういったところですね。佐護笑学校も一応料金は無償です。無料です。
早田委員	あそこは地球大学が。あれは会社ですよ。
比田勝市長	一応株式会社ですね。
一宮委員	例えば朝鮮通信使歴史館の分室として、何か佐須のそういうあその図書室みたいなところとか、校舎をうまく活用するという事は難しいのでしょうか。
比田勝市長	難しいですね。
一宮委員	難しいですか。なるほど。
比田勝市長	それこそ小茂田浜の歴史館みたいな方法で、そういった展示するスペースを作った方がよっぽど良いかもしれません。
早田委員	校舎を管理することが大変ですよ。
一宮委員	そうですね。
早田委員	古い校舎にみちしるべの関係でもう使っていない教材とかそういうものを探しているのですけれども、時々行って活用しているのですけれども、ひどいのですよ。かわいそうだなと。阿連小学校、大調小学校を見ているのですけれども、無残だな。残念でたまらないですね。せっかく良い綺麗な校舎なのに。
一宮委員	何かもったいないですよ。すごく残念です。
比田勝市長	阿連小学校もかなりのところに見てもらっているのですが、みんな良いな良いなと、あそこを何とかして使いたいと言っているのですけれども、なかなか実現まで至っていないのです。大学も良いなと言ってるんですけども。
早田委員	大調とか阿連なんかは、老人介護施設に良いのではないかなと、非常にバリアフリーで作られていて、活用できないかなといつも思うのですけれども。
比田勝市長	老人の介護施設は、今度は介護保険料の問題があるものですから、簡単に増やせないのです。
一宮委員	そうですね。校舎の管理がね。地域が管理になかなか手を上げきれないでしょうね。
比田勝市長	何か良い方法、知恵を絞らなければ
早田委員	これだけICT関連が発達してきたならば、もう場所は無関係ですよ。そういうICT関連のそういう企業が入ってきてくれば、施設はタダ同然で貸してもらえるといたのであったら誘致してもいいというところが来てくれば良いのですけれどもね。
比田勝市長	それですね、先ほどお話ししましたように、市のCATV網を民間に譲渡して行こうと。今のCATVの分では、やはりICTの企業あたりは不足なのです。速度にしても容量にしても。そういうものがあるものですから、ICT関係の企業はもうちょっと今の対馬市のケーブルでは脆弱ですねということ言うらしいですね。ですからそこをちょっと変えて行かなければならないということで民間に譲渡してそ

	<p>こをバージョンアップしてもらわないといけないと思っています。今はあちこちでワーケーションやら何やらで田舎で仕事をしていきますから。</p>
佐伯委員	<p>淡路島とか確かそうでしたね。企業が。東京からワーケーションできた子ども、子どもと言うか、明治大学の学生だった人が就職してワーケーションで行きたいのですけれども、じゃあうちに泊まればいいですよとかやったりしたのですけれども。本当にすごく魅力的って言いますね。魅力で溢れていますと、また来ますと言っていましたね。そういう拠点とかにもなって、いろんな可能性がありますよね。</p>
一宮委員	<p>地域が指定管理者として運営するということは非常に難しいことですね、具体的には。</p>
比田勝市長	<p>要はですね、地域の公民館とか、ああいうのは全部地域の指定管理です。ただこの学校関係を地域でというのは確かに難しくはあるでしょうけれども。</p>
一宮委員	<p>どうかしないと、あそこの校区は閉校ばかりですよ。</p>
比田勝市長	<p>武雄あたりがあれば何でしたか、図書館を作ったじゃないですか。民間の企業が。大きな企業は入ってこないでしょうけれども、そこで皆さんが集まるカフェ的なものを作るとかいうことでしたら、できなくはないと思います。佐須のたん付け餅を売るという場にしたりして。</p>
佐伯委員	<p>常時販売して欲しいですね。佐須は先進的ですよ。蕎麦屋さんはあるし、今度パスタもできたし、銀山がですね。地域としての魅力がどんどん高まっていますよね。</p>
一宮委員	<p>文化的なものというか、そこにちょっと私こだわってまして、地域のそういう発信する。それは業者は色々利益を。文化的なものもなければ。何か良い知恵がないかなと思っています。</p>
早田委員	<p>何年後かの〇〇学校もそうですものね。あんなに新しいのに。新しい所からという気がしますね。</p>
一宮委員	<p>切実ですよ。住む人にとっても。</p>
桐谷次長	<p>なかなか簡単にはいかないと思いますけれども、悩まなければいけないことだと思います。</p>
早田委員	<p>都会だと結構簡単に会社が入ってくれたりとか。</p>
一宮委員	<p>なかなか会社は入って来れないと思いますので、地域がなんとか頑張らないといけないですね。</p>
桐谷次長	<p>学校統合関係についてほかにご意見ありませんでしょうか。</p>
早田委員	<p>簡単な質問なのですがけれども、町単位だった頃は統合した時に学校の名前が変わったりしていましたよね。例えば美津島北部小学校、あれは賀谷とか鴨居瀬とかがくっついて美津島北部小学校になったのですね。以前も、なくなったのですけれども、南陽小学校も小鹿とか琴がくっついて南陽小学校という名前に変わったのですね。以前はそういうのが時々あったのですが。これはちょっとどうかなと思うのですが、峰の西部中学校が東部中学校に統合されるという計画になっているのですけれども、あそこそ何か名前が変わった方が良いのではないかなと。例えば大久保あたりに校舎を建てるのであれば、これで行くと長寿命化計画で東部中を使うのだろうと思うのですが、ただ校</p>

	舎をそのまま東部中なので東部中に行くのかなと思うのですけれども。
比田勝市長	これはまた検討されるでしょうね。
早田委員	それはその地域とかでできるのですか。
比田勝市長	できるでしょう、おそらく。
早田委員	何か名前を変えた方がいいような気がするのですが。峰中学校とか。
比田勝市長	上対馬でも琴と一重と小鹿が統合する時に、琴小学校ではなくて、地域の人たちがみんなです。これは保護者がどちらか決めていましたものね。
永留教育長	統合の仕方が厳しくなって吸収合併であったり、対等合併であったり、そういう部分もあるし。名前についても吸収合併ならそのままでしょうけれどもね。それで良いのか対等合併に持って行くのかというのもやはり保護者や地域の意見を聞きながらになりますので。名称を変えるのならやはり教育委員会がするのではなくて、保護者との話し合いによって決めるということになります。
佐伯委員	よろしいですか。いつもこの話になると道路事情とかの話が絡んでしまって。尾崎、今里、あちらのほうも今度かなり良くなるような噂も聞いているのですけれども、トンネルは計画されているとか。そのあたり分かっている範囲で教えていただければ。
比田勝市長	これまであそこの箕形から今里に行くところのトンネルが、最初計画していたルートが地すべり地帯みたいなどころにあったということで、位置が変更になっているのです。箕形から今里のほうへ行ったら、右側にきゅっと登るでしょう、そして狭い道に入らっしゃい。なので右側に折れるのではなくて、直線のまままっすぐ山の中に突っ込むトンネルなのです。それがもう大体決定もしましたので、近いうちに着工になるということは聞いております。ただ、あそこができて、後もう一本またトンネルを作らなければいけないので、まだちょっと時間がかかるかなと。やりだしたら後はトンネルだったら早いからですね。もうしばらく。
佐伯委員	通学時間がちょっと早くなったり遅くなったり色々あるのですけれども、やはりそこは可哀想だと思うのです。
比田勝市長	もうあそこは大変ですよ。
永留教育長	ですので今里小の保護者には道路ができるまでは統合しませんというように伝えてあります。
一宮委員	トンネルがほげて良い場合もあるし、ほげなくて地域がそこで特性を出すという方法もあるので。
桐谷次長	それでは学校統合計画については、ここで終了してよろしいでしょうか。
会場	「はい。」の声。
桐谷次長	それでは本日の議題については3点、ここで終わりますが、その他、せっかく委員の皆様がお集まりですので、何かご質問・ご意見等々ございましたらお願いしたいと思います。何かございませんでしょうか。 よろしいでしょうか。

会場	「ごさいません。」の声。
桐谷次長	それではご意見もないようでございますので、これもちまして第1回総合教育会議を終了したいと思います。皆さんお疲れ様でした。
一同	ありがとうございました。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日

委 員 (自署)

委 員 (自署)